

## 終了報告書

留学プログラム名	留学生交流支援制度(長期派遣)		
所属(本学)	理学部 地球惑星科学科		
氏名	—	報告書提出時の学年	卒業済み
留学先国	イギリス	留学先大学	イーストアングリア大学
留学期間	2009年 9月 21日～	2010年 8月 6日	

### ① 留学先大学についての概略

私は、英国イーストアングリア大学環境科学科の修士課程(1年間)に留学をしていました。イーストアングリア大学は、イギリス東部に位置するノリッジ市にある大学で、環境科学、開発学、生物学などの分野で世界的に認められている大学でもあります。

### ② 留学前の準備

- ・学部: 研究室配属、学士論文研究、就職活動または大学院入試と留学との兼ね合いを含め、卒業までの計画
- ・大学院: 就職活動、修士・博士論文などとの兼ね合い、修了までの計画。その他、派遣交換留学情報の入手方法、専門分野・語学の準備方法、留学先の研究室に所属した場合、留学先大学の指導教員との準備、ビザ取得方法、住居の探し方など

私は大学院で学部時代に専攻していた分野と異なる分野を学ぶ予定でおりましたので、留学準備期間中は、語学の勉強以上に、大学院で学ぶ専門分野に関する基礎知識の習得に力を注いでいました。留学前から、課程の細かい内容(講義内容、卒業に必要な要件など)はインターネットを通じて知ることができていたので、私の学部時代の専攻や専門知識を勘案して、受講する講義は留学前に決定しておりました。修士論文の内容に関しては、それまでに経験の無かった分野を専攻する予定であったこともあり、留学先である程度勉強をしてから決める予定でおりました。

留学中の滞在先は、学生寮でした。学生寮の申し込みはインターネットで簡単に行うことが出来たので、それほど苦労はしませんでした。ビザの取得などは、高額の上に記入漏れ等による申請の却下も多発していたことから、書類の不備や記入漏れには細心の注意を払っておりました。

### ③ 留学中の勉学・研究

#### 授業登録の有無、授業や研究方法についての感想

イギリスの大学、大学院では日本の大学と同様に、卒業するために所定の単位数の取得と卒業論文の提出が必要です。日本と大きく異なる点は、申請した単位は全て必須の単位となること(単位を落とすことができない)、授業のスケジュールが非常に細かく設定されている(例えば、課題の出題日などはあらかじめ決定され、公表されます)、課題やテストの採点が非常に丁寧に行われる(私が所属していた課程では、一つの課題を原則2人以上の先生が採点することになっておりました)ことなどがあります。

イギリスの大学には研究室所属というものがなく、卒業論文のテーマや研究手法などは、すべて一から自分で決定していかなくてはなりません。一応指導教官はつきますが、自分の担当となる指導教官は、自らお願いするなどして自分で見つける必要があります。

授業のレベルはそれほど高くありませんが、授業の内容をすべて理解した上で、オリジナルの知識をつけることが求められていると感じました。

### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

ボランティア、インターン、旅行、スポーツなど、幅広く体験を教えてください。

現地の環境保全のボランティアに参加しておりました。参加の目的は、地元の方との交流です。イギリスの人は愛想の良い人が多く、自分から積極的に人と接していく姿勢を見せれば、人と交流することはそれほど難しくないと感じました。

⑤ 留学費用について

渡航費、生活費、住居費、保険料、奨学金の有無など。

日本学生支援機構より支援を受けておりました。渡航費は自分で払いましたが、生活費＋授業料全額を給付して頂いておりました。

⑥ 留学先での住居について

寮の有無、申し込み方法、ルームメイト、その他

前述したとおり、学生寮に住んでおりました。寮はフラットと呼ばれる形式のもので、キッチン、トイレ、風呂、食堂を5人程度で共有する形のものでした。寝室は別々なのですが、フラットは男女で共有させられていたので(事前にそのような断りはありませんでした)、女性の方は注意された方が良かったと思います。

⑦ 留学先での語学状況

例えば、授業、研究には〇〇語が必須だが、生活は〇〇語を利用。留学前のTOEFL等語学試験は、〇〇だったが、十分であった(2, 3ヶ月は苦勞した)など。

留学直前にTOEFL-ibtで107点を取得しましたが、これで十分とは感じませんでした。授業で教授が使うようなはっきりとした英語を聞き取る分には問題ありませんでしたし、論文を読んだりすることも苦勞しなかったのですが、英国人との日常会話には苦勞しました。日常会話に関しては、留学前に準備できることは少なく、実践を通して慣れていくしかないと感じました。

⑧ 単位認定、在学期間について

留学中に取得した単位の認定を東工大で行ったか(行う予定か)? 在学期間の延長を行ったか?

私は留学先で修士号を取得したので、東工大での単位認定などは行いませんでした。在学期間の延長はありませんでした。

⑨ 就職活動について

留学先で行ったこと、また帰国後どのように活動する(予定)など。

私は、留学後博士課程に進学するという予定を変更して、8月より就職活動を開始したので、選択肢はかなり限られておりましたが、留学生向けに門戸を広げている企業や、夏から秋に再募集をかける企業も多くありまして、全くの手詰まりというわけではありませんでした。日本人の知り合いなどは、一時帰国をして興味のある会社の面接を受けたりしておりました。現在私は建設コンサルタントの企業に勤務しております。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

⑪ 派遣交換留学を希望する後輩へアドバイス

留学は選択肢の一つに過ぎず、留学を希望されている方が留学を通して達成したいと考えている目標が、実は他のことを通じて達成できる可能性があります。国際交流を希望するなら、長期休暇を利用して海外でボランティアを行うということも考えられますし、自分の大学の留学生と積極的に話してみることもよいかと思います。また、日本の大学は(特に東工大などは)世界トップレベルの水準で研究を行っており、下手な海外の大学に行くよりも日本に残った方がよい場合もあるかもしれません。留学は大量の時間と金銭を消費するものですから、自分にとって留学という選択肢が本当に良いものなのかどうか、色々な人のアドバイスを参考にしながら決められるといいと思います。